

学園情報 178

2025年3月1日発行

AZABU UNIVERSITY 麻布大学 麻布大学附属高等学校 麻布大学同窓会



今号テーマ

「好機到来」

【特集1】大型CT導入を足がかりに日本の産業動物臨床教育をリードする新たな拠点づくりをめざす

【特集2】日本の食環境を支える実践力を備えた人材輩出をめざす新カリキュラムが食品生命科学科で始動

PICK UP

高大接続・社会連携プログラムを通じて 地域との共創を推進

高大接続・社会連携プログラム開発センターでは、これまで本学が取り組んできた「地域連携」をより発展させ、「社会接続」に向けたさまざまな教育プログラムを提供しています。

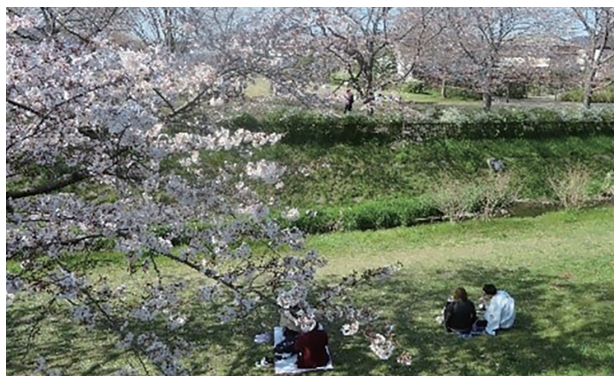
市民・学生と一緒に地域の魅力をデジタル技術で未来に残す

01 麻布大学×FUN+TECH LABO(JR東海)



GIS(地理情報システム)を使用し、地域の「今ある魅力」をデジタル地図として未来に残す市民参加型ワークショップ「麻布大学生と橋本デジタルマッピング」を実施しました。相模原市橋本地区で開催した本イベントは、本学学生が企画の段階から携わり、また地域住民とも関わることから、責任感を持った行動や、実践力を高めるなどの教育効果を発揮しました。

02 麻布大学×神奈川県公園協会×サカタのタネGS



神奈川県立相模三川公園の自然の魅力・記録を世界中に発信する市民参加型ワークショップ「スマホ片手に生き物記録」を実施しました。本学学生と地域住民同士が動植物の素晴らしさを発見・共感し合ったり、教え合ったりする光景がたくさん見られ、また単なる地域活性化だけでなく、様々な生き物の支え合い(生物多様性)を学べる機会になりました。

日本トップクラスの鳥獣害対策を 学外実習として学ぶ

03 麻布大学×島根中央高等学校×島根県美郷町



島根県美郷町に設置されたサテライト施設「麻布大学フィールドワークセンター」を活用し、同町の「美郷バレー構想」を軸に鳥獣害対策を全学科共通で学べる“地域に根差した教育”プロジェクトを実施しました。本学学生・地元住民・地元高校生の三者が協働することで、学生のキャリア形成、町の活動レベル向上、地元高校生の帰属意識の向上など、様々な相乗効果を目指しました。

小学生の情操教育に 学生の研究活動を活用する

04 麻布大学×淵野辺小学校



淵野辺小学校で1年生を対象に、生活科「いきものだいすき」授業が行われました。小学校の情操教育と大学の研究活動を組み合わせた本授業は、獣医学部の学生が講師となり、「ペットとのふれあい」をテーマに、動物との接し方を教え、児童たちは動物を観察しながらスケッチを行うなどふれあいを楽しみました。授業では「す・し・や(「す」わってあそぼう、「し」ずかにはなそう、「や」さしくなでよう)」の合い言葉を使い、動物との優しい接し方を伝授しました。

今後も高大接続・社会連携プログラムを通じて、地域と連携しながら課題解決型学習やアントレプレナーシップ教育を強化し、学生とともに地域の共創を促進していきます。

今号のテーマ「好機到来」

好機到来(こうきとうらい)＝絶好の機会に恵まれること。「好機」はまたとない機会。「到来」はやって来ること。今号では、「LAVECへの大型CT導入による今後の展望」と、「食品生命科学科の新カリキュラム」について特集しています。ともに大きな成果が期待される、まさに好機到来となった、ふたつの取り組みをご覧ください。



CONTENTS

<ピックアップ>

高大接続・
社会連携プログラムを通じて
地域との共創を推進 02

目次 03

【特集1】

大型CT導入を足がかりに
日本の産業動物臨床教育をリードする
新たな拠点づくりをめざす 04

【特集2】

日本の食環境を支える実践力を備えた
人材輩出をめざす新カリキュラムが
食品生命科学科で始動 06

<トピックス>

●麻布大学 08
●麻布大学附属高等学校 10
●麻布大学同窓会 12

新任・退任教職員あいさつ 14

麻布大学ワンだふる本募金
雑誌スポンサー募集

編集後記 15

学園情報 178
2025年3月1日発行

INTERVIEW

01

特集1

大型CT導入を足がかりに 日本の産業動物臨床教育をリードする 新たな拠点づくりをめざす

2014年の竣工から10年を迎える麻布大学の産業動物臨床教育センター（以降、LAVEC）に、今年度、当初から導入予定であった大型CT（コンピュータ断層診断装置）がついに導入されました。今回の特集では導入の経緯にはじまり、画像診断（読影能力）向上にともなう教育効果、さらには日本の産業動物臨床教育に麻布大学がどのように貢献していくのか、獣医学科の河合一洋教授と山田一孝教授にお話をうかがいました。



山田一孝教授

河合一洋教授

産業動物診療部門にとって悲願であった大型CTの導入

——大型CT導入の背景についてお教えてください。

(河合先生)：今回、LAVECに設置されたCTは体重200kgまでの動物を撮影することができる国内最大級(ガントリー径90cm)のものになります。同型を設置しているのは国内では帯広畜産大学と鹿児島大学です。いずれも小動物と共有していますが、産業動物専用のCTは麻布大学が国内唯一です。

(山田先生)：LAVECにCTが設置されるまでは、実習でCT検査が必要な症例がいた場合、小動物臨床センター地下にあるCT室まで牛を運んでいました。麻酔をかけた牛を運ぶ労力、時間調整など、当時のCT検査は苦労の連続で「この検査をLAVECでできれば、どれだけ教育効果が得られるだろう…」と感じる機会が何度もありました。そうした理由から、今回の導入は私たちにあって悲願ともいえる出来事でした。

(河合先生)：もちろん、経済動物である牛が単に診療だけの目的でCT検査を受けることはありません。大学(動物病院)の収入には繋がらないけれども、麻布大学でCTを活用した産業動物臨床教育を受けた卒業生が、大学で学んだことを思い出して100万円の牛を助ければ、100万円の価値ある診療をしたこととなります。そういった意味で今回のCT導入は、大学の収益目的ではなく、純粋に学生の育成という大きな教育目的が背景にあることをお伝えしたいです。

——導入により得られる教育効果についてお聞かせください。

(山田先生)：これまで病理解剖を実施するまで病態がわからない症例に遭遇することが、しばしばありました。しかし、いったん解剖をしてしまえば、生体での身体検査をやり直したくても戻ることができません。それがLAVECにCTが設置されたことで、生前診断ができるようになり、学生は診断の難しかった症例の身体検査をやり直せるようになりました。つまり、生きた動物の身体検査にフィードバックできるようになったわけで、大きな教育効果が望めます。

(河合先生)：CTを診断する機会が増えることで、診断技術(読影能力)の向上も期待できます。特に、レントゲン画像ではわからなかった情報を、CT画像を見てからレントゲン画像を見直すことで、診断技術の向上に繋がっていきます。もちろん、実際の現場にCTは設置されていませんが、レントゲンとCT画像を勉強した経験を思い起こすことで、目の前の症例をもう少し深掘りしてみようという発想に繋がってくれるのではないかと、という期待をもっています。

(山田先生)：臨床検査やX線検査だけでは鑑別診断リストをしばりきれない症例が、CT検査によってわかる場合もあります。たとえば、レントゲンを撮ってもわからなかった原因不明の起立不能症例がいました。当初は筋肉か神経の異常の仮診断でしたが、CTを撮ることで動脈血栓症という、教科書にも載っていない症例であることがわかりました。学生たちはこうした経験を経て、「動脈血栓症」が鑑別リストに加わります。

日本の産業動物臨床教育の拠点としての麻布大学

——そのほかにも期待できる効果はあるのでしょうか？

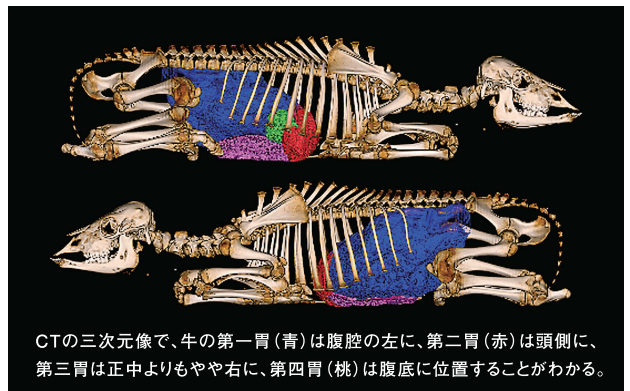
(河合先生)：画像診断の進歩は、卒後教育の点でも教育効果が期待できます。2020年のコロナ禍をきっかけにオンライン会議が普及し、遠隔画像診断も導入されるようになりました。たとえば北海道で撮影されたレントゲン画像を相模原の麻布大学にいながら、ディスカッションできるようになり、本学でも山田先生が中心となって取り組みが進められています。

(山田先生)：遠隔画像診断の導入は、産業動物の画像診断を学ばなかった世代の学び直しに効果的です。さらに、産業動物臨床に就労した若手獣医師や、獣医師不足に陥っている地域に従事している獣医師の皆さんが、遠隔画像診断で自身の成長を実感することで仕事のやりがいを感じられれば、長期的には離職者を減らし、産業動物臨床獣医師数の確保にも繋がります。そうした思いから麻布大学では、CTを利用した学部教育と遠隔画像診断による卒後教育に取り組んでいます。

——これから麻布大学がめざすべき将来像についてお聞かせください。

(河合先生)：麻布大学は全国のどの大学よりも産業動物教育に力を入れています。その原動力となっているのが充実した臨床経験をもつ教員の存在で、各分野の9人の専門家がそれぞれの役割のなかで診療と学生教育を行っています。今回、大型CTが導入されたことにより、ハード(設備)とソフト(教員)の両面で、首都圏他大学を大きくリードすることとなりました。これまで麻布大学は「小動物」があまりにも有名で「産業動物」が目立ってきませんでした。大型CT導入を足がかりに今後は麻布大学に日本の産業動物臨床教育の拠点を構築することで、「産業動物」への充実した臨床教育を世間に発信します。「小動物」と「産業動物」のバランスのとれた臨床教育が麻布大学の強みです。

(山田先生)：私も、学部教育で魅力ある産業動物臨床を行っていくことで、日本一の産業動物臨床教育を実現し、継続的に質の高い獣医師を社会に送り込みたいと考えています。特に産業動物臨床獣医師が不足している現状で、多くの人材を輩出できるよう教育に努めていくことで、日本全国の消費者の皆さんに安心安全な畜産物を提供していけるよう、力を尽くしていきたいです。



CTの三次元像で、牛の第一胃(青)は腹腔の左に、第二胃(赤)は頭側に、第三胃は正中よりもやや右に、第四胃(桃)は腹底に位置することがわかる。

「食を支えるための実践的な学び」が強化された新カリキュラム

——2024年度から食品生命科学科に新カリキュラムが導入された背景について教えてください。

(澤野先生)：麻布大学の食品生命科学科では、2019年に外部のHACCP認証機関から承認された研修コースを、4年制大学としては日本で初めてカリキュラムに導入するなど、食の安全の教育に力を入れてきました。しかし、近年になって「生命科学」に重きを置いた教育研究内容と、入学してくる学生のニーズとの間に徐々にギャップが生まれていることを肌で感じていました。「将来は食品の製造や開発がしたい」と希望する学生は多いですが、関連分野の内容を学べる科目が旧カリキュラムにはそれほど整っているとはいえなかったのです。そこで2022年度から「食品開発PBL実習」を自由科目として実践的に開講したところ、学生に好評だったことに加え、教育効果が見込めると教員自身も感じられたことが大きな原動力となり、新カリキュラムの導入に至りました。

(小手森先生)：従来のカリキュラムでは、食品衛生や食品安全のほか、食品の機能と生体内での働きを学ぶ内容が多くを占めていました。新カリキュラムでは、そこから発展して、人々の生活や人の集団である「社会」につなげる学びを強化していくことが大きな目標としてあります。

——新カリキュラムを象徴する授業があれば教えてください。

(澤野先生)：新カリキュラムで選択科目に昇格した「食品開発PBL・同実習」は、もともとは学園祭の企画として行った、東葛食品株式会社とのコラボによる中華まん製造を原形とした授業になります。製造から販売までの一連の流れを体験しながらビジネス的思考を養い、食にかかわる企画開発力を育成するのがその目的です。将来的には学生のアイデアが発端となる新商品を開発し、大学の生協や近隣の商店で販売するといったイベント売りだけでなく、東葛食品株式会社の通常製造ラインにのるような商品として中長期的な販路が生まれれば、活動の意義もより大きくなるのではないかと期待しています。

(小手森先生)：2026年度からは、これまで保健所などの公的機関が担ってきた「健康づくりをリードする役割」を、食品企業の立場でいかに収益を挙げながら実現させるかをコンセプトにビジネスアイデアを考え、コンテストに応募するなど、大学の外に向けてチャレンジしていく「食と健康のアントレプレナーシップ・同演習」がスタートします。「アントレプレナーシップ(起業家精神)」は、最近の大学教育のトレンドでもありますが、将来、食品メーカーなどに就職したとき、自分の携わった食品が最終的には一人ひとりの口に入り、多くの人々の健康に関わる可能性があることをより意識してもらいたい、という思いからこの授業は生まれました。現在はその前身となる「公衆栄養学実習」が開講中で、今年度は、農林水産省が主導する「未来を創る! フードテックビジネスコンテスト」にチャレンジしているところです。

INTERVIEW



小手森綾香講師



鬼頭久美子講師



澤野祥子教授

02

特集2

日本の食環境を支える 実践力を備えた人材輩出をめざす 新カリキュラムが食品生命科学科で始動

麻布大学食品生命科学科では、これまでの「生命科学」に重点を置いたカリキュラムから、より社会の要望に即した実践教育を展開していくことで、大学での学びを社会実装に繋げていくことをめざす新カリキュラムへの移行が進んでいます。そこで今回の特集では、新カリキュラムが始動した背景や今後の展望について、食品生命科学科長の澤野祥子教授、小手森綾香講師、鬼頭久美子講師にお話をうかがいました。

(鬼頭先生): 授業ではありませんが、食料の生産・加工から消費に至るフードシステムを科学する研究室として2024年度の秋に新設された「フードシステム研究室」も、新カリキュラムを象徴する存在です。生産や製造・販売にかかわる様々なステークホルダーの方々と協働しながら、健康課題の解決に繋がる食品やメニュー開発、食べ方のエビデンスをすることで、国が取り組みはじめた「自然に健康になれる持続可能な環境づくり」に貢献する研究を、今後進める予定です。

日本人全体の健康づくりに大学での学びが繋がっている

——新カリキュラムの今後の展望についてお聞かせください。

(鬼頭先生): 「食品開発PBL・同実習」については、東葛食品株式会社に加えて、株式会社LAUNCH、ハーブティー専門店ALLMYTEAの2社様と連携して、相模原市の特産品を使ったハーブティーを開発する予定です。将来的には相模原市の特産品となるような食品開発を進めていきたいと思っています。

(小手森先生): 「食と健康のアントレプレナーシップ・同演習」の前身となる「公衆栄養学実習」では毎年、食と健康分野でビジネス展開している企業に特別講演を依頼していますが、新科目では、ビジネス的な視点を養うためにも、コンサル会社による特別講義を増やしていく予定です。ただし、ビジネスに寄り過ぎず

健康に配慮した内容になるよう、バランスをもって展開していきたいと思っています。

——最後に、新カリキュラムを通じて 学生たちにどのような成長を期待しますか？

(鬼頭先生): 学生の皆さんには大学は社会で活躍するための練習の場と考え、まず基礎知識を身につけたうえで実践力を養い、トライ&エラーをくり返してほしいと思います。

(小手森先生): 新カリキュラムに社会実装というマクロの視点を取り入れたのには、将来、食に関する様々な分野での活躍が期待される学生の皆さんに、自分たちの学びが日本人全体の健康づくりにかかわっているという視点を養ってほしい、という希望が込められています。私も指導を担当する教員のひとりとして、学生の皆さんが学びを通じて食への興味を高められるよう、全力でサポートしていきたいと思っています。

(澤野先生): 新しいアイデアを生み出すためには豊富な基礎知識が絶対が必要です。今後はそういった面で旧カリキュラムの良さを残しつつ、新カリキュラムでは学生自身が1年を通してゼロから形を作っていく実践的な科目を通じて、卒業後に食品業界で活躍できる人材を、より自信をもって輩出できるよう努めていきたいです。学生の皆さんにはひとつのものを作り上げていくなかで、人とのコミュニケーションや交渉力、組織の中での自分の役割、達成感など、社会に出たときに経験しうる事柄を、時間をかけてしっかり学んでいくことを期待します。

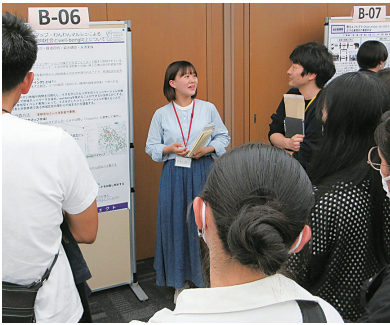


TOPICS AZABU UNIVERSITY

「ジェネプロ研究プロジェクト」 ポスター発表会を実施

2024年5月29日(水)

「麻布出る杭プログラム」の研究プロジェクトを修了した学生が研究成果をポスターにて発表しました。会場は、発表者である“出る杭たち”からの「どんどん聞きに来てください」と言わんばかりの熱烈なアプローチ。そこに群がる研究好きな学生と教員でごった返し、ライブ会場級の熱気に溢れていました。



「生物多様性フィールドワーク演習」 箱根での野外実習を実施

6月15日(土)

環境科学科では毎年、授業科目「生物多様性フィールドワーク演習」にて、箱根で野外実習を実施しています。学生たちは、神奈川県箱根町の金時山にて、登山をしながら標高毎の植物の調査を行い、下山後には、環境省箱根ビジターセンターにて、自然環境の特徴や保全に関わる業務について学びました。

獣医保健看護学科の学生が合同 動物病院説明会に参加

6月24日(月)

獣医保健看護学科1年次の学生が「キャリアデザイン基礎」の授業の一貫で、合同動物病院説明会に参加しました。学生たちは、現場で働く愛玩動物看護師や獣医師から様々な話を聞いて、動物病院で働くことについての理解を深めました。

環境科学科の学生が道保川公園 の環境学習イベントに協力

6月30日(日)

相模原市道保川公園で開催された「第1回道保川公園環境学習『ディスカバリバー』ミツバチ探しとミツろうそくづくり」にて、環境科学科フィールド科学研究室の4年次2人が花と昆虫に関する研究を紹介し、イベントのサポートを行いました。

相模女子大学高等部 探究授業で来校

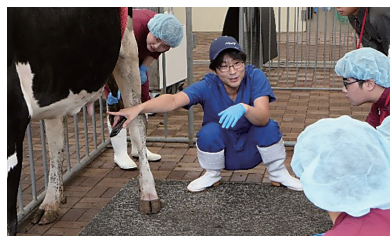
7月17日(水)・12月17日(火)

相模女子大学高等部の探究授業(マーガレットウィークプログラム)に本学が協力し、高大接続の一環プログラムとして、ライフサイエンスコースの生徒さんが7月と12月に来校されました。生徒さんは、動物応用科学科の寺川講師による「動物系プログラム」と食品生命科学科の小手森講師による「食品系プログラム」を体験しました。12月の来校で4回目の開催となり、今後も相互連携を行います。

「いのちと共生のプログラム」× 「アカデミックキャンプ 桐蔭学園 中等教育学校&神奈川学園中学・ 高等学校」を開催

8月1日(木)~8月3日(土)

桐蔭学園中等教育学校のアカデミックキャンプと神奈川学園中学・高等学校の生徒さんが一緒に参加する「いのちと共生のプログラム」が実施されました。獣医学チームでは、「乳牛の体内で泌乳時に起こる変化」をテーマに、動物行動学チームでは、「犬の元気を測る方法」をテーマに、参加者は研究プログラムを通じて、サイエンスの楽しさと面白さを感じ、有意義な経験を積みました。



夏期体験実習および 夏休み研究室体験を実施

8月7日(水)~8月29日(木)

高大連携校・接続校の高校生を対象に、夏期体験実習と夏休み研究室体験を実施しました。多くの高校生が興味のある学科や分野の体験実習に参加し、教員や大学生、大学院生と交流を深め、大変満足されている様子でした。



「ジェネプロ海外チャレンジプロ グラム」の採択者が決定

8月8日(木)

「麻布出る杭プログラム」の研究プロジェクト修了者(3~4年次学生)は、海外の大学や研究機関での研究活動に参加できる「海外研修支援制度(海外チャレンジプログラム)」に応募することができ、今年度は3人の学生が選ばれました。

【池田史穂さん】(動物応用科学科4年次)
・渡航先:カリフォルニア大学デービス校(アメリカ)

【宮本果奈さん】(獣医学科4年次)
・渡航先:パデュー大学(アメリカ)

【駒居奈々さん】(獣医学科3年次)
・渡航先:ベルリン大学(ドイツ)

「麻布出る杭夏期体験プログラム」 に明星高等学校生が参加

8月21日(水)

明星高等学校の2年生10人が「麻布出る杭夏期体験プログラム」に参加しました。生徒さんは、動物応用科学科の戸張准教授による「鳥」のプログラムと、菊水教授・竹田准教授による「食」のプログラムを体験しました。同校とは、他にも複数回高大連携活動を実施しており、今後も相互連携を行います。

～トピックス 麻布大学～

麻布大学「出る杭プログラム事業」×神奈川県立横須賀高校「スーパーサイエンスハイスクール事業」

8月22日(木)

横須賀高等学校の「スーパーサイエンスハイスクール事業」の「PrincipiaII」と本学の「出る杭プログラム事業」が連携したプログラムが、昨年度に続き行われました。「サンショウウオ糞便と池の水からのウイルス探索」をテーマに履修している同校の生徒さんが来校し、獣医学科の長井教授、村上(裕)准教授、動物応用科学科の菊水教授が講師として迎え、実験・実習を行いました。

2024年度 Student Doctor 認定証授与式を開催

8月23日(金)

Student Doctor 認定証が「獣医学共用試験(vetCBT)と基本的診療技能を問う試験(vetOSCE)に合格した学生に授与されました。これは、学生が十分な知識、技術、態度を備えていることを示しており、今回、認定証が授与された本学獣医学科5年次の学生たちは臨床実習への参加資格を得ました。

国立環境研究所との共同研究の成果発表を実施

9月5日(木)

国立環境研究所との共同研究『「生物季節観測」の発展的な活用に向けた共同研究』の第2回活動報告会が開催されました。本学からは、観測会のメンバーが初期の20人から60人超に増加し、毎週1回の観測会が実施されていることを報告しました。また、環境科学科の2人の学生が「サクラの開花時期の比較調査」、「セミの抜け殻の時系列調査」を報告しました。そのほか、国立環境研究所からはツバメの初見日と気候変動との関係、麻布大学からはカエルの鳴き声調査による分布域推定に関する話題提供があるなど、活発な議論が行われました。

日本栄養改善学会学術総会にて本学学生が若手学会優秀発表賞を受賞

9月6日(金)～9月8日(日)

大阪公立大学・杉本キャンパスで開催された『第71回日本栄養改善学会学術総会』で、環境保健学研究科環境保健科学専攻博士前期課程2年次の小林俊一朗さんが、研究テーマ「Web24時間食事思い出し法による食品群別摂取量推定の妥当性」で「若手学会優秀発表賞(学生部門・口演)」を受賞しました。



日本分析化学会にて本学学生が若手ポスター賞を受賞

9月11日(水)～9月13日(金)

名古屋工業大学で開催された日本分析化学会第73年会で、環境科学科4年次で環境分析学研究室所属の河村隆徳さんが「若手ポスター賞」を受賞しました。受賞演題は「多元素プロファイリングアナリシスによる首都圏河川水中レアメタルの潜在的な人為汚染調査」で、発表は河村さんを含む研究チームのメンバーで行いました。

日本医療検査科学会大会にて本学学生が優秀演題賞を受賞

10月4日(金)～10月6日(日)

『日本医療検査科学会第56回大会』で、環境保健学研究科環境保健科学専攻博士前期課程2年次の篠田典明さんが、JACLaS Award 2024優秀演題賞(大学院生部門) AwardIIを、臨床検査技術学科4年次の三原田萌華さんがJACLaS Award 2024優秀演題賞(学部生部門) AwardIをそれぞれ受賞しました。

麻布大学祭を開催

10月26日(土)・10月27日(日)

2024年度麻布大学祭が開催されました。出店、ステージイベント、迷路、こども広場、フリーマーケットなど、さまざまなアクティビティがあり、連日多くの来校者で賑わい、活気ある催しとなりました。



麻布大学 次期学長 決定のお知らせ

12月24日(火)



2024年度末での現学長の任期満了に伴い、次期学長として獣医学科の村上賢教授の就任が決定しました。村上教授は、1986年麻布大学大学院獣医学研究科修士課程を修了し、2001年東京都立大学で博士(理学)を取得。1986年に日立化成工業株式会社に入社後、1994年麻布大学獣医学科に着任し、2005年に教授昇任、麻布大学大学院獣医学研究科長、獣医学部長を歴任し、現在は、大学教育推進機構長、副学長を務めています。学長就任は2025年4月1日、任期は4年です。

TOPICS AZABU UNIVERSITY HIGH SCHOOL

「生徒がつくる学校行事」

芸術鑑賞会

7月12日(金)

相模女子大

グリーンホールにて

芸術鑑賞会を行いました。

今年の演目は「学校寄席」

落語、講談、太神楽曲芸を

間近で鑑賞し、楽しく

古典芸能を学びました。



文化祭

8月31日(土)~9月2日(月)

台風10号の影響で、

大幅な日程変更を

余儀なくされた文化祭でしたが、

一般公開を含め

無事に開催されました。

たくさんの方にご来場いただき、

ありがとうございました!

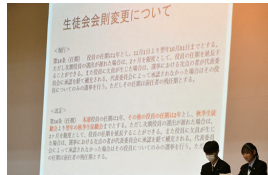


～トピックス 麻布大学附属高等学校～

生徒会選挙&秋季生徒総会

10月28日(月)・11月4日(月)

新たな生徒会役員を決める大切な選挙を行いました。
立候補者の熱い演説を聞いて投票します。
翌週の秋季生徒総会にて
新役員や新委員長の所信表明を行いました。



球技大会

11月19日(火)・11月22日(金)


雨天による順延もありましたが、
球技大会が実施されました。
ドッジボール、フットサル、
バスケットボール、バレーボールの
4種目で競い合います。
多くの競技で3年生が
優勝を勝ち取っていく中、
2年生の下克上も見られました。




主なイベント

●9月
翔瀏祭
前期期末試験 

●10月
2年生 修学旅行 

●11月
1年生 校外学習
球技大会 

●2月
クラスマッチ 

●3月
卒業式
学年末試験
修了式・離任式 

TOPICS AZABU UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION

令和6年度 大学祭へ同窓会参加 10月26日(土)・27日(日)

本学獣医学部獣医学科 高木哲教授による講演会「映像教材を主体とした新たな獣医実習教育の取組み」

本学の高木哲教授(附属動物病院副院長)による講演会が大学祭1日目に行われました。会場の生命・環境科学部棟 201講義室には、約100の方が詰めかけました。獣医学教育は、知識だけではなく、これに加えて、臨床技術を習得する必要があり、歴史的には、実習動物を用いてきましたが、現在は、これに代わり、シミュレーターやVRを活用しており、その効果と意義について、ユーモアを交えてわかりやすく熱心に講演されました。実際の映像も紹介され、あまりにもリアルな映像で、それに酔ってしまった方もおられたようでした。参加者からのアンケートは、すべて好意的、驚き、お褒めの感想で、お子さん、お孫さんが本学に在籍されている方、お子さんが獣医師を目指している方からは、最新技術に驚かれ、よい大学に入学したとの喜びの声や先生の講義が受けられる学生は幸せだなどの感想が寄せられました。高木先生、ありがとうございました。



黒豆の枝豆、黒にんにく完売！ 兵庫県支部

兵庫県支部からの参加は、今回で2回目。10月25日の夕方、生産者兼OBであるF氏が黒枝豆 300kg、黒にんにく 60袋(200g/袋)をハイエースに積み込み、兵庫県を出発。夜通し車を走らせ、朝7時に構内へ到着しました。その後は、袋詰め、試食用の調理、販売、試食の配布と、誰とはなく係が決まり段取りよく販売がスタート。自信をもってお勧めできる品物でしたが、試食して「おいしい!」の声を何うとやはりうれしいものです。前回よりも多い販売量でしたが、2日目の午後3時には完売となりました。おかげで心地よい疲れで帰路につくことができました。購入いただいた方、同窓会の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

兵庫県支部事務局 畠中 みどり



じゃこ天のおいしさ伝える！ 愛媛県支部

愛媛県支部は、じゃこ天の販売を行いました。平成28年の参加時には、じゃこ天400枚と蛇口から注ぐミカンジュースを販売しましたが、好評につき早くに完売したので、2回目となる今回は、前回の400枚の2倍強となる1000枚のじゃこ天を用意し、じゃこ天のみの1本勝負で販売に臨みました。来場された皆さんには、普段あまりなじみがない食品ということもあり、初めは売れ行きがまいちでしたが、試食により、じゃこ天のおいしさに気づいて頂いたようで、次第に順調に売れていき、無事完売することができました。心配されていた天候もなんとか持ちこたえ、懐かしい先生方や同窓生との再会などもあり、楽しく参加することができました。

愛媛県支部事務局 河瀬 曜



恒例の落花生待つお客様も 千葉県支部

大学祭初日に恒例行事となっている「千葉県産落花生の販売」を実施しました。朝から人出が多く、数名のお客様が販売開始を待っておられました。千葉県産の新豆は煎りたてで味も良く、用意した240kgの落花生も14時には完売。各々大学祭を見学する時間もあり、淵野辺の飲食店で、理事長、中村先生、市原先生、学生さんをお交え、懇親会を行い楽しい時間を過ごすことができました。同窓会の皆様、本当にありがとうございました。千葉県支部では、所属部会の枠を超えて活動を続けています。多くの皆様に千葉県で再会できることを願っております。次回もおいしい落花生をお届けできるよう頑張ります!

千葉県支部事務局 武井 洋一郎



動物相談コーナー 千葉県・神奈川県・横浜市支部

今年も3支部の会員の協力で動物相談コーナーを設け、犬や猫の病気などに加えて、健康管理、しつけについて、43件の相談がありました。共立製菓株式会社様から、フード試供品のご提供をいただきました。ありがとうございました。

～トピックス 麻布大学同窓会～

環境政策学科の集い2024

※1999(H11)～2008(H20)に設置されていた学科

9月29日(日)

大学内「テラスいちょう」の生協食堂にて、「環境政策学科の集い2024(25周年)」を開催しました。2017年の集まり以降、4年に一度の同窓会を予定していたところ、コロナ渦で開催できずに久々の同窓会開催となりました。学科としては存続していませんが、今年が設立25周年となり、祝賀を兼ねての会でもありました。1期生から9期生までの卒業生とその家族、先生方7人(退職された先生と在職されている先生を交えて)、総勢60人の参加があり、盛況に終えることができました。

平成18年卒 阿比留 悠



就活の前に・・・卒業生から教わろう 「就職業界研究会」

生命・環境科学部会の開催報告

11月13日(水)

生命・環境科学部会では、卒業生のいる企業に集まって頂き、「就職業界研究会」を実施しました。就活を開始する前にOB/OGのいる会社を知り、進路を決める一つのツールとなることを目的としています。昨年の課題を活かし、本年は環境関連企業に加え食品/臨床関係の企業に参加を呼び掛け、企業数を増やしての開催となりました。参加企業には資料を作成していただき、事前に学生に配布し、企業研究をしてもらいました。当日は、大教室にて参加企業31社によるショートスピーチの後、8号館百周年記念ホール・6階講義室に移動し、各企業ブースでの説明会が15分3クールで行われました。1クールわずか15分の企業説明でしたが、OB/OG(41人)ということもありアットホーム的な雰囲気の中、多くの質疑・応答がされ、活発な意見交換がされました。昨年より多分野の企業に参加いただいたことから、学生(約160人)の参加数も増え、将来について考える良い機会になったと思います。今後も我々卒業生が学生の将来設計にさらなる支援をできればと考えています。ご協力いただきました生命・環境科学部の先生方、企業や卒業生の皆さまに感謝申し上げます。

生命・環境科学部会 奥田 雄二



学生が未来への夢を育むためのエールを送る! 「卒業生と在学生の集う会」

動物応用部会の開催報告

11月30日(土)

麻布大学8号館の百周年ホール及び6階の講義室に於いて動物応用部会主催「卒業生と在学生の集う会」を開催しました。本会は、単なるリクルート企業説明会ではなく、同じ大学を卒業した先輩たちからのエールによって学生が未来への夢を育むことができるようになる事を目指したもので、今年開催で9回目を迎えます。昭和61年から令和6年の幅広い年代の卒業生32名が、動物応用科学科2年生に対して5時間にわたり熱いエールを送り続けました。各業界ブースの卒業生に対して学生からの怒濤の質問が飛び交い、卒業生は熱い情熱と思いを学生に伝えました。昨年に続き環境保健学部(現:生命・環境科学部)卒業生の山本氏による「キャリアコンサルタント」の講演には学生の熱い眼差しが向けられました。令和4年卒業生橋爪氏は、令和2年の本会に参加し、実験動物業界に進路をとった経験を語られました。参加卒業生と学生との年代が近づき、会場は一体となる盛り上がりを見せていました。開催にあたりご協力をいただきました大木先生、大学事務局、卒業生の皆様、本当にありがとうございました。

動物応用部会 笠原 年春



GREETING

～新任教職員あいさつ～

●●●● 自分を漢字1文字で例えると ① 新任にあたっての抱負 ② 趣味や特技



生命・環境科学部 臨床検査技術学科
生化学研究室
教授 寺田 晃士

水 常に柔軟で自然であるという
生き方に憧れます。

- ①主に遺伝子関係の講義を担当します。遺伝という概念、遺伝情報の物質的基盤やその伝達様式、遺伝子検査の方法や意義などについて、面白かった、と思ってもらえるような講義や実習をすることが目標です。
- ②昔から、フラ～っとその辺を歩いて回るのが好きでした。ここ30年間はほぼ主に細胞の中の世界を歩く日々でしたが、今後も、学生さん達と一緒にそんな世界を楽しんで歩いて回ることができたら嬉しいです。



生命・環境科学部 食品生命科学科
フードシステム研究室
講師 鬼頭 久美子

食 食や栄養、健康への興味から、多くの人とのご縁や
機会をいただき、今の自分につながっています。

- ①学生生活が充実し、社会で活躍できるよう、温かくサポートしたいと思っています。フードシステムの観点から、ヒトの健康に貢献する研究を進めていきたいです。
- ②スコアは気にせず、楽しみながらのゴルフ歴20年です。また旅行も趣味で、その土地の食・文化・歴史、人に触れることで、リフレッシュしています。



事務局 総務部
人事課
事務職員 白井 天河

薬 新たな出会いや既存の繋がりを大事にしており、
人的交流から成長に繋がると感じているため。

- ①私にとって、大学職員との出会いは人生の転機でした。私も大学職員として学生に寄り添い、学生の自己実現を支援したいです。
- ②趣味はバイク・車と犬の散歩です。最近はバイクを修理することに熱中しています。特技はサッカーです。犬が走るのが好きなので、散歩中によく走らされています。



事務局 教務部
入試広報・渉外課
事務職員 坂本 恵理

声 説明会や相談会では常に
声のトーンや抑揚を意識しています。

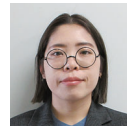
- ①毎日が新鮮なことの連続ですが、自分にできることを真摯に努めてまいります。学園の風土に馴染みつつ、他の学校法人での経験を生かせるようにできればと思います。
- ②趣味は観劇です。卒業論文も演劇に関するものを書きました。最近観る頻度が落ちてしまいましたが、仕事に慣れたらまたいきたいと思っています。



事務局 総務部
企画課
事務職員 志田 洸基

知 新しいことを知り、学ぶことが好きな性格です。
自身の知識や経験を活かせるよう頑張ります。

- ①学園の取組は多岐に渡ります。広い視野で学園の取組を捉え、発展のために行動できる職員を目指していきたいと思っています。
- ②趣味は競馬観戦です。人馬一体となって走る姿にいつも感動しております。特技は英語です。英語で話しかけてくれたら英語で答えます！ Please talk to me in English!



事務局 教務部
学生支援課
事務職員 船戸 木の実

凧 何事にも動じず、
心は穏やかであります。

- ①社会人としては8年目となりますが、新たな環境ですので、自ら進んで現場業務に取り組み、業務フローや職場の文化を学びながら、少しでも早く学園に貢献できるよう努めてまいります。
- ②趣味は犬の散歩、読書、映画・ドラマ・アニメ鑑賞、編み物、お菓子を焼くことです。家にいるのが好きで、入職を機に引っ越したので、最近はいかに居心地のいい部屋をつくるか考えるのが楽しいです。

～退職教職員あいさつ～

●●●● 在職中の思い出や感想を漢字1文字で例えると ① 在職中の一番印象に残った出来事 ② メッセージ



獣医学部 動物応用科学科
動物繁殖学研究室
教授 柏崎 直巳

究 研究者として学理を究めて
社会に貢献する。

- ①多くの学生さんや先生、関係者と知り合い、楽しい時間を過ごすことができました。そして社会で活躍できる人材の輩出に務めました。
- ②麻布獣医学部は、教職員の自主独立の風土がある。このフロンティア精神を大切に、今後も社会に大いに貢献する教育研究を展開していただきたい。



生命・環境科学部 臨床検査技術学科
微生物学研究室
教授 古畑 勝則

礼 学生に礼儀正しい人になってほしいからです。
研究室でも挨拶は毎日実行してもらいました。

- ①3号館から生命・環境科学部棟への引っ越しです。実は、学生の時に短大の校舎(2号館)から3号館への引っ越しを経験しています。人生において同じ大学内で2回引っ越しすることはなかなかないと思います。
- ②1998年から母校の教壇に立ちました。所属学科では、国試に全員合格が目標でしたが、一度も実現できなかったことが唯一の心残りです。急激な時代の変化にコミットできない老害は静かに去ります。麻布大学に感謝。



生命・環境科学部 食品生命科学科
食品衛生学研究室
教授 三宅 司郎

育 学生の成長は、
大きなやりがいだと思いました。

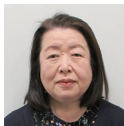
- ①やはりコロナ禍です。発症年の2月末にベトナムに出張したのですが、翌3月から路線運行が休止し薄水を踏みました。また、ちょうど学部教務委員長を引き受けており、コロナ対応がたくさん生じました。
- ②7年間、たいへんお世話になりました。長く企業人を務めた後に、教員を経験したことで視野がとても広がりました。今後は、この経験を社会に還元していきたいと思っています。



生命・環境科学部 環境科学科
環境衛生学研究室
教授 遠藤 治

誠 建学の精神「学理の討究と誠実なる実践」から。
在職中に亡くなった実父の戒名(座右の銘)から。

- ①新型コロナウイルスのパンデミック。この前後でいろいろなきごとがありました。大きく変わってしまったように思えます。個人的には従来のスキルが通用しない無力さを感じる一方、新たな挑戦の好機も感じます。
- ②「健康第一」を標榜してきたが、某卒業生から「そういう先生が一番不健康だよ」と指摘された。とはいえ「継続は力」なので、人と動物と環境の未来を担う皆様の「健康第一」を祈念しております。



事務局 総務部
人事課
主査 茂木 元子

歓 歓びに満ちた日々でした。
お世話になりました。

- ①2011年3月11日東日本大震災の日、振替休日をいただいて自宅にいたのですが、揺れが大きかったことを記憶しています。翌々日の日曜日に高校の新入生説明会を実施できたことが印象に残っています。
- ②創立150年…200年を目指して、いつの世であっても選ばれる学園であって欲しいと願います。



麻布大学 ワンだふる 本募金

麻布大学ワンだふる本募金とは？

在学生、ご父母、卒業生、教職員、近隣住民のみならず、読み終えた本や、不要になった CD、DVD、ゲームソフトなどを提携業者にお送りいただき、提携業者が買い取った金額を、みなさまからの寄付金として麻布大学に全額寄付いただき、学生用図書資料購入や環境整備等に充てるプロジェクトです。

【かんたん申込み】 ●ご自宅では段ボール箱に詰めてWEBから申込みをするだけです。 ●5点以上ならば送料はかかりません。

- お申し込みは、WEBで受け付けています。
- 買取査定についてなど、詳細はこちらのホームページをご覧ください。
- <https://www.charibon.jp/partner/azabu-u/>
- ※書籍等の集荷については、株式会社バリューブックスに運営をお願いしています。



よろしく
お願いします



マスコット
キャラクター
フルボン

雑誌 スポンサー 募集

雑誌スポンサー(広告主)を募集します。

スポンサーになっていただくと新刊雑誌のカバーに広告を掲載することができます。雑誌は、学生をはじめ図書館利用者が閲覧しますので、宣伝や地域のPRに最適です。

スポンサー
特典!

- 図書館所蔵の図書を借りることができます。
 - 他の図書館等との相互利用サービス*1 を利用*2 できます。
- *1 本学で所蔵していない資料を他大学等に複写依頼できるサービス
*2 基本料金+複写料金+送料がかかります。

- 【募集対象】 企業、団体のほか個人も受け付けます。(※審査あり)
- 【スポンサー料】 雑誌の年間購読料
- 【対象雑誌】 図書館で指定する雑誌リストからお選びください。
- 【広告規格】 ●カバー表:縦10cm×横17cm
●カバー裏:カバーのサイズを超えない範囲
●雑誌架:雑誌架の扉のサイズを超えない範囲

お申し込み方法など、
詳細はこちらのホームページをご覧ください。

https://library.azabu-u.ac.jp/azlib/sponsor/sponsor_info.pdf

X(旧Twitter)
でも、雑誌
紹介します



マスコット
キャラクター
しおりん

編集後記

2023年5月に新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が「5類」に移行されたことを機にアフターコロナとなってから約2年が経過し、オープンキャンパスではコロナ禍以前の来校者数を超える年間約5,000人の高校生が来校するなど、本学でも人的交流が本格的になってきました。

巻頭や大学TOPICSでも紹介しているとおり、高大・社会連携の活動も積極的に行っており、各分野で「麻布大学」のブランドが浸透するよう大学全体で引き続き取り組んで参ります。

入試広報・渉外課「学園情報」編集担当

地球共生系

～人と動物と環境の共生をめざして～

麻布大学の建学の精神は「学理の討究と誠実なる実践」です。

本学は、創設者よくら はるたか與倉東隆先生の建学の精神である、学理を討究し実践を重んじる誠実なる校風を受け継ぎ、

人と動物との共存および人と自然環境との調和の途を探求することを目的として

獣医学、畜産学、動物応用科学、生命科学および環境科学に関する専門の知識を教授研究し、

その応用力の展開をはかるとともに、進んで学術の進歩と国民生活の向上に寄与し、

平和社会の建設に貢献することとしています。

大学

【獣医学部】

- 獣医学科
- 獣医保健看護学科
- 動物応用科学科

【生命・環境科学部】

- 臨床検査技術学科
- 食品生命科学科
- 環境科学科

大学院

【獣医学研究科】

- 獣医学専攻(博士課程)
- 動物応用科学専攻(博士前期・後期課程)

【環境保健学研究科】

- 環境保健科学専攻(博士前期・後期課程)

麻布大学附属高等学校

- 普通科

附置・附属機関

- フィールドワークセンター
- 附置生物科学総合研究所
- 附属学術情報センター
- 附属動物管理センター
- 附属動物病院
- 大学教育推進機構
- 研究推進・支援本部
- 麻布大学いのちの博物館
- 健康管理センター
- DEI推進センター

学園情報 178

AZABU UNIVERSITY 2025年3月1日発行

発行／事務局 教務部 入試広報・渉外課



学校法人 麻布獣医学園

麻布大学

〒252-5201 神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-71

TEL 042-754-7111(代表)

FAX 042-754-7661

ホームページ <https://www.azabu-u.ac.jp/>

Eメール koho@azabu-u.ac.jp



麻布大学附属高等学校

〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-50

TEL 042-757-2403 FAX 042-751-6280

ホームページ <http://www.azabu-univ-high-school.jp/>

一般社団法人麻布大学同窓会

〒252-5201 神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-71

TEL 042-769-2183 直通 FAX 042-759-0337

ホームページ <https://azabu-doso.com/> Eメール doso@azabu-u.ac.jp